

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—事業

連携大学名	北海道大学	連携大学事業推進委員	井上 哲	事務担当者	渡邊 勉
-------	-------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	横山敦郎 井上 哲 山崎 裕 柏崎晴彦 浅香卓哉	歯学部長 部門長 教授 講師 助教	事業責任者 歯科臨床研修部門 高齢者歯科学講座 高齢者歯科学講座 口腔内科診断学講座	Ⓐ・否
教育プログラム・コース名	北海道大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療の周術期における口腔管理研修コース			
事業計画	<p>研修概要</p> <p>さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟し、歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる歯科医師を育てるために行うもので、がん治療の周術期セミナー、がん化学療法前の口腔管理演習、およびがん治療周術期の口腔管理研修からなる。</p> <p>対象</p> <p>単独型歯科研修医 8名</p> <p>研修目標</p> <p>(1) さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟する (2) 歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる</p> <p>研修項目</p> <p>(1) がん治療の周術期管理に関する講義 (90分×7回)</p> <p>① 5月13日(水) がん化学療法全般 ② 5月19日(火) 血液内科領域のがん治療 ③ 5月29日(金) 小児科領域のがん治療 ④ 6月 8日(月) がん放射線療法全般 ⑤ 6月23日(火) 耳鼻咽喉科領域のがん治療 ⑥ 7月 7日(火) がん治療と口腔内合併症 ⑦ 7月14日(火) がん患者の歯科治療と医療連携</p> <p>(2) がん化学療法前の口腔管理演習 (90分×1回)</p> <p>① 新患担当症例のプレゼンテーションと問題点のディスカッション</p> <p>(3) がん治療周術期の口腔管理研修</p> <p>① がん化学療法前の口腔管理を目的とした新患の歯科治療 (2週間) ② 耳鼻咽喉科, 血液内科, 小児科各病棟への周術期口腔管理の往診 (各科病棟2週ずつ計6週)</p> <p>研修評価</p> <p>(1) 講義受講後のレポート提出 (2) 研修終了後の運営委員会メンバーによる口頭試問合格</p>			

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H26年度第一回北海道大学病院歯科医師卒後研修管理委員会にて、平成27年度から始まる本研修プログラムの概要（単独型プログラムの選択研修）を説明し、了承された。 ・本学の研修内定者に対し、当研修プログラムの募集案内を、今春の歯科医師国家試験の発表後すぐに郵送するための準備を完了した。 ・研修項目（1）のがん治療の周術期管理セミナーにおける7回分の講師を最終決定し、日時、場所を決定した。セミナーの内容についても各講師と打ち合わせをした。 また、当日のセミナーをビデオ撮影可能なように準備を整えた。 ・研修項目（2）のがん化学療法前の口腔管理演習の担当教官を決定した。 ・研修項目（3）のがん治療周術期の口腔管理研修では耳鼻咽喉科、血液内科、小児科への往診の際の器具の整備、各病棟での見学受け入れの承諾を得て、担当教官を決定した。 ・ハワイ国際交流セミナーの参加者から、プログラムの担当者に対し癌周術期関連の話題の報告を行った。
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表 なし</p> <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>備品・消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟入院患者への往診用のヘッドライト 2個 ・スキャナー：1台 ・ビデオカメラ：1台 ・ノート型パーソナルコンピューター：1台 <p>旅費</p> <p>海外) ハワイ国際交流セミナー：1人</p> <p>国内)</p> <p>学会 日本障害者歯科学会（仙台）：3人 日本訪問歯科学会（東京）：4人</p> <p>研修会 口腔外科研修会（東京）：13人</p> <p>会議 健康寿命延伸のための世界会議（東京）：3人 本プログラムのキックオフミーティング（岡山）：9人 コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウム（岡山）：2人</p> <p>その他 参加費) 口腔外科研修会、日本訪問歯科学会</p>

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

連携大学名	金沢大学	連携大学事業推進委員	中村博幸	事務担当者	奥野理沙
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	川尻秀一 中村博幸 長谷剛志 大井一浩	教授 准教授 非常勤講師 講師	事業推進委員 事業推進委員 教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター	Ⓐ・否
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム (1) がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース (2) がん治療支援口腔機能管理卒後臨床研修コース (3) がん治療支援口腔機能管理コース			
事業計画	平成26年度 歯学教育改革コンソーシアムの事業推進委員会を開催 各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行 岡山大学でキックオフシンポジウム、事業推進委員会開催			
成果	(1) 歯学教育改革コンソーシアムの事業推進委員会に参加 (2) 当教室と金沢大学がんプロフェッショナル医養成プラン(がんプロ)が共同で市民公開講座“がん治療と口腔ケア～口腔ケアはがん治療の入口です～”を開催した。 (3) 各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)のプロジェクトリーダーの金沢大学医学部神経内科学教室の山田正仁教授より、認知症の理解や介護等の知識を得るためにe-learningのコンテンツおよび私達が作製するe-learningをお互いに共有し、さらに認知症と口腔機能管理に関するe-learningを共同で作製することで合意を得た。 (4) 岡山大学でキックオフシンポジウム、事業推進委員会開催 岡山大学でのキックオフシンポジウムに参加しシンポジストとして演題“金沢大医学部における歯学教育プログラムー特色および具体的な取り組みー”を発表した。			
本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等	論文・研究発表 Iyo Kimura, Hiroko Kitahara, Koroku Kato, <u>Hiroyuki Nakamura*</u> , <u>Shuichi Kawashiri</u> ; Loss of EGFR expression in oral squamous cell carcinoma is associated with invasiveness and epithelial-mesenchymal transition. Oncology Letter, 2015, in press. 知財 長谷剛志、中村博幸：咽頭ケア器具 喀痰吸引チューブ“からめとーる”特願2015-31411 受賞等 なし			
事業費の使途	設備備品 訪問診療用ポータブルユニット、ストレートハンドピース トルクテック、倍速コントラ(ライト付き) トルクテック、5倍速コントラ(ライト付き)トルクテック、スリーウェイシリンジ(ライト付き)、ノートパソコン、ソフトウェア 旅費 歯学教育コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウム(東京医科歯科大学) 参加 「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」キックオフシンポジウム(岡山大学) 参加 その他 蘇州大学との国際交流・視察			

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	大阪大学	連携大学 事業推進委 員	脇坂 聡	事務担当者	高木芳倫
-------	------	--------------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開 示の可否
事業組織	脇坂 聡 竹重文雄 池邊一典 権藤恭之 神出 計 北村正博 松田謙一	歯学部長 教授 准教授 准教授 教授 准教授 助教	事業責任者 教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター 実習担当（老年心理学） 実習担当（老年内科学） 実習担当（歯周病学） 実習担当（歯科補綴学）	☑・否
教育プログラ ム・コース 名	大阪大学先導的「口腔から全身への健康学」教育の高度化プログラム 異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習 多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース			
事業計画	<p>大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の方を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。</p> <p>大学院生や臨床研修医は、この共同研究に参加し、それぞれの分野の観点を学び、口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習する。</p> <p>高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な医療人や研究者との交流を図り、異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラムである。</p>			
成果	<p>異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習では、4名の大学院生が、1回6時間の実習を、延べ34回履修した。</p> <p>また、指導的歯科医療人養成コースでは、6名の臨床研修医が、1回6時間の実習を、延べ13回履修した。</p> <p>大学院生、研修医とも、高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し、修得するとともに、収集したデータの入力、整理を行った。大学院生は、それに加えて統計解析も行った。</p> <p>6名の臨床研修医は、長野県の農村部において、各5日間、訪問歯科診療に同行し、診療を見学するとともに、上記のうち可能なものについてデータの収集を行った。</p> <p>また、3名の大学院生が、アメリカ（IADR）での学会発表を行う予定である（3月中旬）。</p>			

<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表 論文発表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Kurushima Y, Ikebe K, Matsuda K, Enoki K, Ogata S, Yamashita M, Murakami S, Hayakawa K, Maeda Y (2015). Influence of genetic and environmental factors on oral diseases and function in aged twins. J Oral Rehabil 42: 49-56. 2. Inomata C, Ikebe K, Okubo H, Okada T, Takeshita H, Tada S, Matsuda K, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y. Impact on dietary intake of removable partial dentures replacing a small number of teeth. Int J Prosthodont. in press. 3. Takeshita H, Ikebe K, Kagawa R, Okada T, Gondo Y, Nakagawa T, Ishioka Y, Inomata C, Tada S, Matsuda K, Kurushima Y, Enoki K, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, Maeda Y. Association of personality traits with oral health-related quality of life independently of objective oral health status: A study of community-dwelling elderly Japanese. J Dent. 2014 Dec 24. doi: 10.1016/j.jdent.2014.12.011. <p>研究発表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Uota M, Ikebe K, Okada T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Tada S, Enoki K, Matsuda K, Kitamura M, Murakami S, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, Maeda Y: Factors related to the taste acuity among Japanese older people. Annual meeting of JADR. (2014/12/4) Osaka. 2. Mihara Y, Ikebe K, Matsuda K, Tada S, Okada T, Inomata C, Takeshita H, Uota M, Enoki K, Murakami S, Kitamura M, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, Maeda Y: Background factors of edentulousness in Japanese octogenarians. Annual meeting of JADR. (2014/12/4) Osaka. 3. Yamaba S, Yamada S, Kajikawa T, Awata T, Sakashita H, Tsushima K, Murakami S. PLAP-1/Asporin Negatively Regulates Inflammatory Responses Through the Direct Interaction With TLR2 S. (2015/3/12) Boston, USA. 4. Yamamoto S, Takedachi M, Morimoto C, Awata T, Yamaba S, Yamada S, Murakami S. Hypoxia Regulates PLAP-1 Expression in Periodontal Ligament Cells. (2015/3/12) Boston, USA. 5. Yuko Kurushima; Kazunori Ikebe; Kenichi Matsuda; Kaori Enoki; Soshiro Ogata; Motozo Yamashita; Shinya Murakami; Yoshinobu Maeda. Relationship between Oral Health and Arterial Sclerosis Using Older Twins. (2015/3/13) Boston, USA. <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>3月3日現在</p> <p>消耗品 調査用LEDヘッドライト, 栄養調査費など:706,913 円</p> <p>旅費 国内旅費 : 974,493 円 海外旅費 : 895,981 円</p> <p>その他 学会参加費 : 80,068 円</p>

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	岡山大学	連携大学事業推進委員	窪木拓男	事務担当者	成本浩二
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	窪木拓男 森田 学 宮脇卓也 鳥井康弘 飯田征二 曾我賢彦	歯学部長 委員長 部会長 部門長 部長 副部長	事業責任者 教務委員会 臨床実習実施部会 卒後臨床研修センター歯科部門 医療支援歯科治療部 医療支援歯科治療部	☑・否
教育プログラム・コース名	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある医療支援歯学教育プログラム「口腔・全身健康実践」コース—周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療— ・医療支援歯学教育コースワーク 1. 要介護高齢者を模したシミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習 ・医療支援歯学教育コースワーク 2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援周術期口腔機能管理実習 ・医療支援歯学教育コースワーク 3. 臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習 			
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 歯学教育改革中核センター(仮称)を設置, 事業のホームページ開設 ② 岡山大学のコースワーク(CW)として老人介護施設を用いたPBL演習の試行 ③ 本事業の開始へ向けてがん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催 歯学教育改革コンソーシアム(仮称)の事業推進委員会を開催 ④ 各連携大学の特徴あるプログラムの登録, 試行 ⑤ 連携校間や協力施設への教員FDとしての交流開始 ⑥ 教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査開始 ⑦ キックオフシンポジウム, 事業推進委員会, 第1回外部評価委員会開催 ⑧ コンテンツ視聴システム・作成システム(1台)を整備 ⑨ 自己評価委員会開催, 報告書作成 			
成果	<ol style="list-style-type: none"> ① 医療教育統合開発センターに歯科医学教育改革部門を設置, 事業のホームページ開設を行った. 本事業に関連する事項を随時掲載している。 ② 臨床講師を通じて歯学部学生(5, 6年生)を地域医療機関へ派遣し, 介護施設への訪問歯科診療に同行させた。介護現場における歯科医療の課題について学生自身に考えさせ, 報告書を提出させた。振り返り学習として小グループで発表し, ディスカッションを行った。 ③ がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理を具体的に考えるシンポジウムを2014年7月26, 27日に開催し, 9月27日に第1回歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会を開催した。 ④ 各連携大学でのプログラムについては, 各大学の特色および地域性を活かしたプログラムを登録し, 取組みを開始している。一例として, 鹿児島大学における離島歯科診療実習の試行が挙げられる。 ⑤ 岡山大学から昭和大学へ特任助教を派遣し, 2015年3月19日に「シミュレーターを用いた要介護患者に対する歯科医療教育」と題して講演会を行った。 ⑥ 2015年度に離島実習を実施している大学へ学生を派遣し教育を行うため, 特任助教が現場視察を行った。 ⑦ 2015年2月13, 14日にキックオフシンポジウム, 2月13日に事業推進委員会を開催した。キックオフシンポジウムには199名の参加があり, 盛会裏に終了した。自己評価報告書を資料として外部評価委員による評価をいただいた。 ⑧ コンテンツ作成システムの整備が完了した。前述のキックオフシンポジウムにて本システムを用いて講演の収録を行った。全連携大学で視聴できるシステムの構築を2016年度5月完成予定で 			

	<p>関連業者に依頼し進めている。</p> <p>⑨ 自己評価を行った。前述の通り、自己評価報告書を外部評価の資料とした。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表・シンポジウム等</p> <p>本事業の応募過程において、採択後の準備を兼ね、以下のシンポジウムを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習教育プロジェクトキックオフシンポジウム (2014年4月27日、岡山大学歯学部) (参加者：140名) 演題 (講演者) <ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学歯学部の臨床教育戦略 (窪木拓男・岡山大学歯学部長) ・在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習において教育効果を向上させるためには (高橋賢晃・日本歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科講師) ・岡山大学歯学部での在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習の概要 (宮脇卓也・岡山大学病院副病院長 (教育担当) 臨床実習実施部会長) ・在宅・訪問歯科診療の現場から (近藤修六・倉敷市 近藤歯科医院院長, 吉富達志・岡山協立病院歯科医長, 木村年秀・三豊総合病院歯科保健センター長) ・がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理を具体的に考えるシンポジウム (2014年7月26, 27日, 岡山大学創立五十周年記念館) (参加者：県外151名, 県内149名) 演題 (講演者) <ul style="list-style-type: none"> ・がん化学療法とは (西森久和・岡山大学大学院医歯薬学総合研究科血液・腫瘍・呼吸器内科学助教) ・外来化学療法におけるチーム医療—看護師の役割— (西本仁美・岡山大学病院 看護部・腫瘍センター師長) ・日本の白血病治療のトレンドと造血幹細胞移植の実際 (前田嘉信・岡山大学病院 血液・腫瘍内科講師) ・造血幹細胞移植期の口腔内管理の実際について (高橋郁名代・岡山大学病院看護部副師長) ・Oral supportive care in cancer; the importance of multiprofessional and international cooperation (Dr. Judith Raber-Durlacher・MASCC/ISOO元理事, ISOO元会長) ・日本の周術期医療、岡山大学病院周術期管理センターが目指すものと将来展開 (森松博史・岡山大学病院周術期管理センター長) ・周術期管理センター 看護師の役割 (足羽孝子・岡山大学病院 看護部) ・術前術後の栄養管理 PERIOのチーム力 (坂本八千代・岡山大学病院 栄養管理部) ・周術期チーム医療とERAS (佐藤健治・岡山大学大学院医歯薬学総合研究科麻酔蘇生学分野) ・食道がん手術の実際と周術期チーム医療の関わりについて (白川靖博・岡山大学大学院医歯薬学総合研究科消化器外科学) ・食道がん手術における周術期口腔管理の実際 (山中玲子・岡山大学病院 医療支援歯科治療部) <p>採択後の業績は以下の通り。</p> <p>【主催シンポジウム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯学教育改革コンソーシアム設立記念シンポジウム (2014年9月27日) (参加者：学内74名、学外46名) <ul style="list-style-type: none"> 課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」について (窪木拓男・岡山大学歯学部長) 超高齢社会を見据えた未来医療予想図：～今、改めて医科歯科連携で何を成し遂げるのか～ (飯島勝矢・東京大学高齢社会総合研究機構, 東京大学医学部在宅医療学拠点運営委員会委員) 昭和大学の医歯薬看護連携教育 (片岡 竜太・昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座歯学教育学部門) 昭和大学の在宅医療支援歯学 (弘中 祥司・昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門) 在宅歯科医療学を支えるシミュレーション教育と臨床講師制度を利用した在宅介護歯科医療教

育（宮脇卓也・岡山大学病院副病院長（教育担当）臨床実習実施部会長）
地域医療における「ヒト」の育成 地域全体で育て地域医療マインドを培う-地域医療人材育成の教員の立場から-（佐藤 勝・岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座）
高齢者の歯と口腔機能が健康長寿に及ぼす影響：文理融合型コホート研究より（池邊 一典・大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴学第二教室）

・健康長寿を担う歯科医学教育改革 キックオフシンポジウム

（2015年2月13日，岡山大学歯学部，2月14日，岡山大学創立五十周年記念館）（参加者：200名）
演題（講演者）

・医学部歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラムの充実に向けて（野口 誠・全国医学部付属病院歯科口腔外科科長長会議会長，富山大学大学院医学薬学研究部 歯科口腔外科学講座，岸本裕充・兵庫医科大学歯科口腔外科学講座，川尻秀一・金沢大学医薬系保健研究域 医学系細胞浸潤学（歯科口腔外科学），丹沢秀樹・全国医学部付属病院歯科口腔外科科長会議事務局，千葉大学大学院医学研究院口腔外科学分野，足立良平・神戸常盤大学短期大学部，兵庫県病院歯科医会会長）

・「平時」から「有事」まで，オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人を育てる（岸本裕充・兵庫医科大学歯科口腔外科学講座）

・金沢大医学部における歯科教育プログラム-特色および具体的な取り組み-（中村博幸・金沢大学医薬系保健研究域 医学系細胞浸潤学（歯科口腔外科学））

・「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定大学に期待すること（島居剛志・文部科学省高等教育局医学教育課）

・長寿社会のエンドオブライフ・ケア（会田薫子・東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター上廣死生学・応用倫理講座）

・歯科における摂食嚥下リハビリテーションの始まりと摂食機能療法学演習例の紹介（植田耕一郎，日本大学歯学部 摂食機能療法学講座）

・北海道大学における歯科医学教育（井上 哲・北海道大学大学院歯学研究科 臨床教育部門）

・長崎大学における離島医療保健実習から何を学ぶか？（角 忠輝・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教育研究支援センター総合歯科臨床教育学）

・離島地域を基盤とした地域歯科医療教育の開発（田口則宏・鹿児島大学大学院歯学総合研究科 歯科教育実践学分野）

【主催・共催講演会】

・岡山大学病院第67回緩和ケア勉強会（2015年1月15日）

・見落とさないで，口の中ってすごく大切（曾我賢彦・岡山大学病院 医療支援歯科治療部）（参加者：院内20名、院外20名）

・昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門研究生ミーティング（2015年3月19日，昭和大学旗の台キャンパス）

シミュレーターを用いた要介護患者に対する歯科医療教育（杉本恭子，武田宏明・岡山大学医療教育統合開発センター歯科医学教育改革部門）

【公開講座、講演会等発表】

・日本歯学系学会協議会公開シンポジウム（2015年2月7日）

超高齢社会に対応する歯学教育を如何に構築するか（窪木拓男・岡山大学歯学部長）

【報道】

・日本歯科新聞（2015年1月13，20，27日）

学び舎探訪（窪木拓男・岡山大学歯学部長）

知財

なし

受賞等

なし

事業費の使途	<p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none">・ 文房具 <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本事業に関連した学会への参加旅費, およびシミュレーター配布大学への講演会のための旅費 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本事業推進のための特任助教および, 事務員への人件費・ 本事業成果公開のためのホームページ開設, 保守管理費用・ シンポジウム開催費, 収録費用・ 設備費 (コンテンツ作成マシン、シミュレーター購入)
--------	---

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	九州大学	連携大学事業推進委員	西村 英紀	事務担当者	内田 克彦
-------	------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	赤峰 昭文 高橋 一郎 中西 博 西村 英紀 中村 誠司 山下 喜久 重村 憲徳	学部長 副研究院長 副研究院長 教授 教授 教授 准教授	本プログラムの本学部総責任者。新設科目の立ち上げ及び他大学プログラムの連携について総指揮を行う。 本学部カリキュラムの総責任者。本プログラムの運用に助言する。 本学部新設科目講義担当者。 本プログラム本学部の新設科目世話人及び他大学プログラム連携責任者。 本学部臨床実習責任者。 本学部新設科目講義担当者。 本学部新設科目講義担当者。	☑・否
教育プログラム・コース名	九州大学先導的「口腔から全身への健康学」教育の高度化プログラム 口腔健康科学特論			
事業計画	九州大学歯学研究院が重点領域と位置付ける、「口腔健康科学」「組織の再生・再建研究」のうち、本プログラムと密接に関連した、「口腔健康科学」分野のトピックスを課題解決型授業として導入する準備を進める。具体的には、 第1回：栄養の経口摂取と摂食行動、糖代謝、肥満の関連性 第2回：肥満の病態と微細慢性炎症の成立機序 第3回：肥満と耐糖能異常の関連性、メタボリックシンドローム成立機序 第4回：歯周炎症と肥満の病態の類似性 第5回：歯周炎症とインスリン抵抗性、心腎連関への影響 第6回：久山コホートの特徴とこれまでの成果 第7回：医学統計学実践 第8回：歯周炎症のアルツハイマー病への関わり の講義準備を進める。当初予定が歯学部5年生の臨床予備実習期間（8月）であるため、開講を平成27年度からとし、本年度はそれに向けた講義科目ならびに講師の選定を行う。また、予定講師は岡山大学で開催されるキックオフシンポジウムに参加し、情報収集を行うとともに、プログラムの全体観を共有する。			
成果	平成27年度から歯学部5年生向けに「口腔から全身への健康学」を開講し、臨床実習の一部に組み入れ、実施することを検討している。また、新たに睡眠時無呼吸症候群に関する講義を追加する予定である。本年度予算で、本講義で用いる音声システムを整備し、1月末に講義予定者が担当した講義の一部でシミュレーション講義を行った。また、2月13日と14日に岡山大学で開催されたキックオフシンポジウムに予定者ならびに関係者10名が参加し、情報収集を行った。			

<p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <p>【栄養の経口摂取と摂食行動関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Involvement of multiple taste receptors in umami taste: analysis of gustatory nerve responses in metabotropic glutamate receptor 4 knockout mice. Yasumatsu K, Manabe T, Yoshida R, Iwatsuki K, Uneyama H, Takahashi I, Ninomiya Y. <i>J Physiol</i>, 593 (4): 1021-1034, 2015. 2. Glucagon-like peptide-1 is specifically involved in sweet taste transmission. Involvement of multiple taste receptors in umami taste: analysis of gustatory nerve responses in metabotropic glutamate receptor 4 knockout mice. <i>FASEB J</i>, in press, 2015. <p>【医学統計関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. Risk factors for reduced salivary flow rate in a Japanese population: the hisayama study. Takeuchi K, Furuta M, Takeshita T, Shibata Y, Shimazaki Y, Akifusa S, Ninomiya T, Kiyohara Y, Yamashita Y. <i>Biomed Res Int</i>, in press, 2015. 4. Gender-specific associations of serum antibody to Porphyromonas gingivalis and inflammatory markers. Furuta M, Shimazaki Y, Tanaka S, Takeuchi K, Shibata Y, Takashita Y, Nishimura F, Yamashita Y. <i>MioMed Res Int</i>, 2015; ID 897971, 2015. <p>【睡眠時無呼吸関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. Oral appliance treatment for obstructive sleep apnea: an update. Sutherland K, Vanderveken OM, Tsuda H, Marklund M, Gagnadoux F, Kushida CA, Cistulli PA. <i>J Clin Sleep Med</i>, 10(2):215-27, 2014. <p>【肥満・糖尿病関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. Sanda Y, Kumoto T, Suehiro H, Yamamoto T, Nishimura F, Kato N, Yanaka N. IκB kinase IKK epsilon expression in adipocytes is up-regulated by interaction with macrophages. <i>Biosci Biotech Biochem</i>, 78: 1357-1362, 2014. 7. Okubo H, Nakatsu Y, Sakoda H, Kushiyama A, Fujishiro M, Fukushima T, Matsunaga Y, Ohno H, Yoneda M, Kamata H, Shinjo T, Iwashita M, Nishimura F, Asano T. Mosapride citrate improves non-alcoholic steatohepatitis with increased fecal lactic acid bacteria and plasma glucagon-like peptide-1 level in a rodent model. <i>Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol</i>, [Epub ahead of print], 2014. <p>【認知機能関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. Connection between periodontitis and Alzheimer's disease: possible roles of microglia and leptomeningeal cells. Wu Z, Nakanishi H. <i>J Pharmacol Sci</i>, 126(1):8-13, 2014. 9. Cathepsin D deficiency induces oxidative damage in brain pericytes and impairs the blood-brain barrier. Okada R, Wu Z, Zhu A, Ni J, Zhang J, Yoshimine Y, Peters C, Saftig P, Nakanishi H. <i>Mol Cell Neurosci</i>. 64:51-60, 2015.
<p>事業費の用途</p>	<p>消耗品 ファイル 一式</p> <p>旅費 キックオフシンポジウム参加（福岡～岡山） 10名 関連学会（日本再生医療学会）参加（福岡～横浜） 1名 海外大学連携強化・視察（福岡～タイ・バンコク【カセサート大】） 1名</p> <p>その他 講義室音響設備 1式</p>

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	長崎大学	連携大学事業推進委員	澤瀬 隆	事務担当者	馬場 敬三
-------	------	------------	------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	澤瀬 隆 齋藤 俊行 角 忠輝	教授(口腔インプラント学) 教授(口腔保健学) 教授(総合歯科臨床教育学)	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当	☑・否
教育プログラム・コース名	長崎大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム・離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習			
事業計画	<p>長崎県は全国で最も多くの離島を有し、離島地域の高齢化率は34%を超え、わが国の超高齢社会がすでに具現化されている。健康長寿社会の貢献マインドを范疇するにあたり、この地は絶好の教育現場であると言える。長崎大学歯学部では、離島等の地域歯科医療を担う歯科医師養成を目的として、宿泊施設を有する「長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所（五島列島五島市）」を拠点として、医学部、薬学部と共に多職種連携による「地域医療一貫教育」を行う。すなわち、医歯薬の医療系3学部の共修で、実際に学生が離島に赴き、滞在し、離島医療を実体験しながら医療・保健・福祉学を学ぶことで、在宅介護実習と医科歯科連携を実践する。</p> <p>平成26年度の事業計画は以下のとおりである。</p> <p>① 9月 歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウム（岡山大学）ならびに同事業推進委員会に出席。</p> <p>② 10月 実習予定施設確認ならびに新規実習施設視察。</p> <p>③ 12月 次期診療参加型臨床実習の開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習方法：1組4名ずつ、H26年12月から13クールに分かれて、連続5日間五島列島五島市にて滞在型実習を長崎大学臨床実習生に対して実施（年間計44名）。 ・初日（移動／ガイダンス）：午前；船便にて移動（3.5時間）。 午後；実習項目、到達目標のガイダンスとディスカッション。 ・離島歯科口腔医療実習：民間歯科医院による往診に帯同し、見学ならびに補助を行う。 ・離島福祉施設実習：五島市社会福祉協議会「デイ・はまゆう」ならびに要介護施設只狩荘にて、介護スタッフの補助、口腔ケアの実践を行い、高齢者歯科保健に必要な知識、態度、技能を学ぶ。また福祉現場での介護スタッフとの連携を体験する。 ・離島保健医療実習：五島市健康政策課・長寿介護課における、行政が実施している保健予防事業への参加を通じて公衆衛生上、必要な知識、態度、技能を学ぶ。 ・グループディスカッション：各学生のポートフォリオを基にグループディスカッションを行い互いの学びの共有、問題点の抽出を行う。 <p>④ 2月 連携校との教員FD：鹿児島大学視察。</p> <p>⑤ 2月 平成26年度下五島地区離島医療教育研究会にて実習指導報告（五島市）。</p> <p>⑥ 2月 事業推進委員会、キックオフシンポジウム（岡山大学）。</p> <p>⑦ 3月 連携校との教員FD：岡山大学視察。</p>			
成果	<p>① 9月 歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウム（岡山大学）ならびに同事業推進委員会に出席（澤瀬、角）。</p> <p>② 10月 実習予定施設確認打合せならびに新規実習施設視察（澤瀬、角、梅田）。</p> <p>③ 12月 本年度診療参加型臨床実習開始。</p> <p>④ 2月 連携校との教員FD：鹿児島大学視察（田口、河野）。</p> <p>⑤ 2月 平成26年度下五島地区離島医療教育研究会にて実習指導報告（五島市）。</p>			

	<p>⑥ 2月 事業推進委員会（澤瀬、角）、キックオフシンポジウム（角、他）（岡山大学）。</p> <p>⑦ 3月 連携校との教員FD：岡山大学視察（武田、杉本）。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表：</p> <p>1. 歯学部臨床実習生による平成26年度離島医療保健実習報告 小山善哉、齋藤俊行、澤瀬隆、角忠輝（於 平成26年度下五島地区離島医療教育研究会 五島市）</p> <p>2. 長崎大学における離島医療保健実習から何を学ぶか？ 角忠輝（於 「健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成」事業キックオフシンポジウム 岡山市）</p> <p>知財： 無し</p> <p>受賞等： 無し</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>設備備品費</p> <p>可搬式歯科用ユニット 1台 729,000円 介護老人保健施設ならびに居宅訪問診療に用いる診療用歯科ユニット。本年度は離島実習参加前の学生を対象に、その使用方法をレクチャーし実際に相互実習として学生同士でシミュレーションした。</p> <p>AIRSIMエアウェイトトレーニングシステム 1台 301,728円 摂食嚥下トレーニングならびに喀痰除去手技のシミュレーター。本年度は離島実習参加前の学生を対象に、実際の訪問診療や口腔ケア時に喀痰吸引が出来るよう本システムを用い模擬トレーニングを行った。</p> <p>旅費</p> <p>国内旅費</p> <p>歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会出席 2名 80,090円 離島実習の事前打合せ 3名 80,145円 離島実習視察 4名 129,747円 課題解決型高度医療人材養成プログラムシンポジウム参加 30名 1,459,290円</p>

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—事業

連携大学名	鹿児島大学	連携大学事業推進委員	松口 徹也	事務担当者	中村 友貴
-------	-------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	松口 徹也 於保 孝彦 田口 則宏	歯学部長 副学部長 臨床教育部会長	事業責任者 講義担当（カリキュラム、評価等） 体験型実習担当（企画、評価等）	Ⓐ・否
教育プログラム・コース名	鹿児島大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」			
事業計画	<p>【目的】住民の高齢化と医療過疎の問題を抱える地域・離島における歯科診療の実態を理解させることで、地域のニーズに応じた包括的歯科医療を推進できる歯学生・歯科医療人を養成する。</p> <p>【計画】H27年度から、「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」のタイトルで講義（90分 X 7回）および体験型実習（奄美大島、与論島、種子島、徳之島、沖永良部島、屋久島への派遣型歯科医療実習）形式の教育コースを歯学部生対象に開講する予定である。これらの島々は古くから健康長寿の島として知られるが、島民の高齢化と医療過疎の問題を抱えており、これらの島々をモデル地域として、今後ますます進むことが想定される高齢化社会と医療過疎化に対応した医療人マインドの育成を図る。講義は受講学生からのフィードバックを取り入れた双方向形式の授業を計画している。</p> <p>この教育コースの対象学生は、本学歯学部生のみでなく、ビデオ録画を利用したe-learning形式の授業と、派遣型歯科医療実習への参加募集によって、本プログラムの他の連携大学歯学部生にも受講可能とする予定である。</p>			
成果	<p>【平成26年度の活動状況】</p> <p>来年度からの教育プログラムの開始に向けて、その準備過程として以下のような活動および機器の購入を行った。</p> <p>1) 奄美大島、与論島、種子島における実習基盤の整備 奄美大島、与論島、種子島各島における実習受け入れ先の決定、各島での本学医学部実習先との調整および医学部、歯学部の共同での実習運営に関わる調整、実習のトライアルを実施。 （本整備事業の一部は「科学研究費基盤研究C（25463255）研究代表者：田口則宏」にて実施した。）</p> <p>2) 特色ある医療支援歯学教育プログラムに向けて他地域の視察</p> <p>① 長崎県五島市福江町 2015年2月に長崎大学が医歯薬三学部合同で実施している「離島医療・保健実習」を視察し（教授1名、助教1名）、離島および医療過疎地域における実習方式について情報収集と意見交換を行った。</p> <p>② 北海道大学 2015年3月に北海道大学が開講している高齢者歯科学とそれに伴う院外実習の内容について視察を行い（教授2名）、情報収集と意見交換を行った。</p> <p>3) 事業推進委員会、キックオフシンポジウムへの参加 2014年9月（岡山）事業推進委員会：派遣2名（教授1、事務職員1） 2015年2月（岡山）キックオフシンポジウム：派遣6名（教授4、准教授1、講師1）</p>			

	<p>4) FD講演会「より良い周術期口腔機能管理を目指して」の実施 本プログラム連携大学より、樋口勝規教授（九州大学病院 口腔総合診療科）、梅田正博教授（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔腫瘍治療学分野）の2名を招いてFD講演会を実施し、意見交換を行うとともに、ビデオ録画による講義コンテンツの作成を行った。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <p>1. 田口則宏、小松澤均、南弘之、河野博史、志野久美子、吉田礼子、松本祐子、岩下洋一郎、中山歩：地域・離島歯科医療実習の充実に向けたカリキュラム開発の試み. 第33回日本歯科医学教育学会学術大会, 北九州, 2014.</p> <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース開講準備のための消耗品 <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業推進委員会出席のための旅費 ・キックオフシンポジウム出席のための旅費 ・その他各種視察のための旅費 ・講師招聘旅費 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ管理システム機能改修

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	岩手医科大学	連携大学事業推進委員	城 茂治	事務担当者	山本 和博
-------	--------	------------	------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	三浦廣行 城 茂治 佐藤和朗 石崎 明 野田 守 岸 光男 古屋純一	歯学部長 歯学部教授 歯学部准教授 歯学部教授 歯学部教授 歯学部准教授 歯学部准教授	プロジェクト統括 教育コンソーシアム事業推進委員 実習コーディネーター カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター 実習コーディネーター 実習コーディネーター	☑・否
教育プログラム・コース名	入院時・災害時のベッドサイドにおける食支援と口腔ケアに関する教育の高度化プログラム			
事業計画	<p>本教育プログラムの目的は非常時（入院時・災害時）において、他職種連携の上で専門的な口腔のリハビリテーション、ケア、管理を行い、ベッドサイドにおける食べる機能の支援と感染防御を実践できる研究能力を持った指導的な口腔機能の専門家を養成することにある。</p> <p>平成26年度は、この目的を実現化すべく実施体制の明確化のため、各実習コースの担当者や実施場所、実施時期等について確認するとともに、来年度からの各実習コースの運営が滞りなく進められるように各実習コース担当者との事前打合せやトライアル実習の実施などを計画した。加えて、本実習プログラムが来年度から岩手医科大学大学院歯学研究科の2年次以降の教育プログラムとして組み込まれるように、大学院歯学研究科教育プログラムとしての整合性を確認しつつシラバス内容の完成を計画した。</p>			
成果	<p>1. 「被災地口腔ケア・食支援実習」のトライアル実習を下記の内容で平成26年11月9日より11日までの2泊3日の日程で岩手県沿岸被災地である大槌町に出向して開催した。</p> <p>本トライアルコースの目的：被災地の歯科保健医療のニーズを理解する。</p> <p>①被災地の現状を知る（復興状況、歯科保健・医療供給体制など）を知る。 ②被災直後の歯科医師に対するニーズを列挙する。 ③復興段階での被災地の歯科保健・医療のニーズを列挙する。 ④被災直後の歯科的介入について検証する。 ⑤復興段階での歯科的介入を検討する。</p> <p>実習内容：</p> <p>①事前講義（参加者に各大学コンソーシアムとして実施されている本事業の概要を理解する） ②被災地における健康調査への参加（被災地の特定健診の際に実施している歯科検診に参加） ③被災地の復興状況の視察 ④被災地におけるミニシンポジウムへの参加（地元歯科医師、保健師の参加） ⑤これまでこれからの被災地の歯科保健・医療の在り方についての課題抽出</p> <p>以上のトライアル研修には5名の大学院学生が参加し、被災地の歯科保健医療の現状を踏まえたうえで、被災直後から現在に至るまでの被災地における歯科保健・医療のニーズの概要と、これからの課題についてKJ法を用いた抽出によるプロダクトの作成を行った。これらの実習内容が、時間的、内容的にも大学院歯学研究科2年次以降の教育プログラムとして機能することを確認した。</p> <p>2. 「摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習」のトライアル実習を下記の通り実施した。 第1回：2月27日（金） 17時～21時 摂食嚥下のメカニズムと障害、診察法、口腔ケア 17時～17時5分 開会挨拶 17時5分～17時15分 プレアンケート</p>			

<p>成果（続き）</p>	<p>17時15分～18時10分 摂食嚥下概論、メカニズム 18時15分～19時10分 摂食嚥下障害の診察、口腔ケア 19時20分～20時10分 口腔ケア実習、吸引実習 20時20分～21時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>第2回（予定）：3月27日（金） 17時～21時 摂食嚥下機能の検査と嚥下内視鏡検査の実際 17時～17時5分 開会挨拶 17時5分～17時15分 プレアンケート 17時15分～18時10分 スクリーニングテスト、実習 18時15分～19時10分 嚥下造影、嚥下内視鏡検査 19時20分～20時10分 嚥下内視鏡検査実習 20時20分～21時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>本トライアル研修には15名の大学院歯学研究科学生が参加した。なお、実施状況やプレ・ポストアンケート調査の結果から、本トライアル実習の結果、本実習の実施体制に問題は無く、実習体験者の理解度や満足度についても概ね良好であったことが示された。</p> <p>3.「栄養サポートチーム（NST）・緩和ケア実習」について、現在当大学附属病院で実施されている各カンファレンスに参加し、実習担当者との事前打合せを行った。</p> <p>以上の1～3の実施状況をもとに、実質的な大学院シラバス案を作成し、歯学部研究科委員会の承認を得た。今後、本シラバスをもとに2年次以降の単位認定を伴う実習コースとして参加者を募集し、来年度の各実習を実施する予定である。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表 特記事項無し</p> <p>知財 特記事項無し</p> <p>受賞等 特記事項無し</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>旅費 697,160円 【国内旅費】697,160円 課題解決型高度医療人材養成プログラム説明会 9月 岡山 教員 2名 103,300円×1名+100,500円×1名=203,800円（1泊2日） 上記以外 2名 66,600円×2名=133,200円（1泊2日） 教育プログラムトライアル研修 11月 釜石市・大槌町（岩手） 教員 1名 31,400円×1名=31,400円（2泊3日） 上記以外 5名 26,200円×4名+24,000円×1名=128,800円（2泊3日） 交通運搬費 81,900円（盛岡⇄釜石市・大槌町 移動分） 39,460円（現地 移動分） キックオフシンポジウム 2月 岡山 教員 1名 78,600円×1名=78,600円（2泊3日）</p> <p>謝金 38,979円 教育プログラムトライアル研修にかかる外部講師謝金 小松 元（開業医）38,979円</p> <p>会議費 64,800円 教育プログラムトライアル研修にかかるシンポジウム等用会議室使用料 64,800円</p> <p>設備備品費 2,041,524円 口腔管理機能シミュレーションモデル マナボットF（ニッシン） 324,000円 多目的耳咽喉スコープ タイプB（PENTAX） 677,484円 CCDカメラシステム一式（PENTAX MEDICAL） 1,040,040円</p>

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	日本大学	連携大学事業推進委員	前野正夫	事務担当者	渡邊 龍
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	前野正夫 本田和也 植田耕一郎	歯学部長 学務担当 教授	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター	☑・否
教育プログラム・コース名	日本大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム アドバンスト歯科学講義・実習—摂食機能療法学			
事業計画	<p>1 第6学年卒前教育の摂食機能療法学・高齢者歯科学実習カリキュラムの見直し：</p> <p>① 第6学年への実習終了後アンケートの実施： 平成27年度以降の実習カリキュラムに反映することを目的として、平成26年度前期（5～7月）に実施した第6学年の実習講義・実習内容について、後期（10月）にアンケート（複数回答可とし、実習講義・実習について学生自身についての質問と実習に関する教員への評価）を行う。</p> <p>② 実習カリキュラムの再編成： これまでの実習では、基礎実習・臨床実習を行っており、基礎実習では口腔ケア・嚥下内視鏡実習・嚥下間接訓練について患者を想定した学生同士の相互実習を、臨床実習では診療室や日本大学病院、特別養護老人ホームへの病棟往診の見学を行っている。平成27年度からは、より実際の患者の歯科治療シチュエーションを想定できるように、また、卒業後、診療現場で直面する高齢者への歯科治療に応用可能となるような講義・実習内容を実施するため、アンケートの結果を反映した講義・実習内容の向上を検討する。</p> <p>2 口腔機能管理モデルの開発： 実践的・臨床的な治療計画を立てて実習を進められる、といった教育効果を目的とした、これまで日本大学歯学部附属歯科病院で診療した患者の口腔内状況を参考に、摂食嚥下障害を背景にもつ高齢者の口腔内を忠実に再現した口腔機能管理モデルを開発する。</p>			
成果	<p>1 次年度以降のカリキュラム再編成にあたり、5～7月に行われた実習講義・実習内容についての6年生へのアンケート結果から、点数評価と自由記載の感想を分析した。</p> <p>その結果、良かった点として、学生は実習講義への意欲が高く、実習の目的や内容への高い理解があったが、予習をする意欲については約半数が不十分であると自身で認識しているという事がわかった。また、実習の疑問点の解決方法については、学生の9割近くが担当教員や友人に質問することで疑問点を解決していた。さらに、教員への評価は、学生の7割近くが講義内容や説明が適確であったと解答していた。一方、改善してほしい点として、実習の進め方（時間配分やKJ法によるディスカッションの頻度など）とテキストの充実があげられた。</p> <p>これらの結果から、実習内容と教員の指導や質問事項への対応について、学生は概ね満足しており、この点については次年度以降も継続する必要があると考えられる。また、学生の予習については、通常の講義の際に、講義内容を工夫するか、実習前に実習内容についての試験をするなどの方法によって改善を図ることを検討している。また、教員への課題として、現在実習テキストがなく、プリントを参考資料として配布して実習に臨んでもらうため、将来的にテキストを作成する必要があるという事がわかった。これらの継続点、改善点を平成27年度の実習内容に反映させた。</p> <p>また、実際に実習を行う前に、インストラクターの指導内容の統一や問題点の洗い出しを図るために、プレ実習を行った。これにより、インストラクター間のコンセンサスが得られ、学生への教育指導の基準について共通認識を持つことができた。</p>			

	<p>2 模型の開発が平成26年9月以降からの着手となったため、今年度の実習では開発模型の導入を行うことができなかった。このため、次年度の実習では、模型を導入した新しい実習プログラムを作成し、インストラクターによるプレ実習を行った。これにより、学生へ実習を行う前に教員の指導と学生評価の統一を図ることができた。このように摂食機能障害の背景をもつ高齢者の口腔内の診査・診断、治療計画の立案を行い、模型を使用した治療の実習を行うことで、学生が現実的な高齢者への治療のイメージを持ち、実習目的と内容の理解度を深めることが期待できる。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表 植田耕一郎, 歯科における摂食嚥下リハビリテーションの始まりと摂食機能療法学演習の紹介, 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム (健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人材養成) 選定事業, 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-キックオフシンポジウム, 2015, 岡山</p> <p>知財 特になし</p> <p>受賞等 特になし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品 次年度の新たな実習プログラム実施に伴い、インストラクターによるプレ実習で使用するために、顎歯模型、吸引カテーテル、オブラート、ネオダイン、コンポジットレジン、セメントスパチュラ、食紅、ペンライトを購入した。</p> <p>旅費 課題解決型高度医療人材養成プログラム第1回事業推進委員会 (2014/9/27) , 課題解決型高度医療人材養成プログラムキックオフシンポジウム (2015/2/13-14) への参加のための旅費として支出した。</p> <p>その他 特になし</p>

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	昭和大学	連携大学事業推進委員	弘中 祥司	事務担当者	大矢 敦
-------	------	------------	-------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	弘中 祥司 石川 健太郎 片岡 竜太	教授 講師 教授	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 歯学教育改革コンソーシアム開発・編成担当	可
教育プログラム・コース名	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある医療支援歯学教育プログラム チーム医療を目指した歯科医療人養成コース ・特色ある医療支援歯学教育プログラム 健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース 			
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース <p>昭和大学では高度選択科目、他大学では自由選択科目とし、第4学年に対して科目名：4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90分12コマを実施する。</p> <p>第5学年では科目名：4学部連携チーム医療Ⅲ（学部連携チーム）学部連携病棟実習 90分20コマについて、昭和大学附属の歯科室を有する病院で臨床実習を行う。</p> <p>昭和大学病医院（815床）：総合急性期病院 昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院 昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院 昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期回復期病院 昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院</p> <p>※隣接の昭和大学附属東病院（199床）：慢性期 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院（206床）：慢性期も利用する。</p> <p>本学臨床実習規定に基づき、2か月間のうち4/5出席でかつ、修了時に課題試験を行い70%以上の正答を得た者を修了とする。臨床実習修了後に高度選択実習として病院歯科外来を利用したクリニカルクラークシップ方式をとり履修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース <p>臨床研修歯科医師を対象とし、広範な一般医学知識をもち、病院の中で多職種と連携しながら、チーム医療を実践し、入院患者の口腔機能管理を行えるようになり、かつ、退院後の患者の生活を、医療、介護などの面から、包括的に考え、退院後の歯科診療、特に在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し、地域連携パスに繋ぐことで地域医療に貢献できる歯科医師を輩出する。</p> <p>臨床特論講義は2単位で1単位は全身管理、救急医学、有病者歯科医療学、1単位は栄養、老年歯学、摂食嚥下リハビリテーションとする。</p> <p>臨床研修</p> <p>昭和大学口腔ケアセンター研修（1週間：連携校は2週間）を以下の施設で行う。</p> <p>昭和大学病医院（815床）：総合急性期病院 昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院 昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院 昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期回復期病院 昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院</p>			

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース 本年度は、本学4年次学生に対して、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90分12コマを実施した。多くの学生が終了時のアンケートでチーム医療の重要性を認識していた。また、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）では、模擬患者のシナリオを通してチーム医療の中での歯科医師の役割が認識されて、他学部の生徒との信頼関係の構築に重要な実習であった。次年度には、実際に病棟実習を行うため、歯科医師に必要な医科の知識の重要性が再認識されると思われた。 ・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース 本学の臨床研修歯科医全体の中から昭和大学口腔ケアセンターをラウンドした者は85%の72名であり、研修終了後のアンケート調査から、「入院患者の口腔のケアの重要性を説明できる」という回答が最も多かった（3月21日が最終：現在87%）。また、同様に「重度の口腔乾燥のある入院患者に対する口腔のケアについて説明できる」という項目が少なく（3月21日が最終：現在24%）、今後のプログラムの進行により、改善が期待される。
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 弘中 祥司, 勝部 直人, 石川健太郎, 内海明美, 片岡 竜太, 美島 健二, 北川 昇, 丸岡 靖史, マイヤース 三恵, 馬場一美, 井上美津子, 宮崎 隆, 城 茂治, 藤村 朗, 越野 寿, 豊下 祥史, 入江 一元. 歯学部大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」3. チーム医療教育（急性期）日本歯科医学教育学会, 2014. 2) 石川 健太郎, 内海 明美, 久保田 一見, 石崎 晶子, 石田 圭吾, 中川 量晴, 向井 美恵, 弘中 祥司. 周術期口腔機能管理の保険導入による大学病院口腔ケアセンターの活動の変化. 口腔衛生学会雑誌, 64巻2号, 234, 2014. <p>知財 特になし</p> <p>受賞等 特になし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品 ・特になし</p> <p>旅費 ・第1回事業推進委員会に弘中祥司、片岡竜太、大矢敦が参加し、「歯学部における多職種連携教育の実践例」を講演した。 ・課題解決型高度医療人材養成プログラム 「健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成」シンポジウムに宮崎隆、弘中祥司、石川健太郎が参加した。</p> <p>その他（外注費） ・多職種連携、チーム医療に関連するeラーニング教材を昭和大学で実施するための基本フレームを構築し、実際のeラーニング教材の作成を開始した。</p>

平成26年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

連携大学名	兵庫医科大学	連携大学事業推進委員	岸本裕充 野口一馬	事務担当者	鈴木明良
-------	--------	------------	--------------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	岸本 裕充 野口 一馬 長谷川 陽子	主任教授 准教授 講師	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 教育カリキュラム開発・編集担当 実習・e-learning作成担当	Ⓒ・否
教育プログラム・コース名	兵庫医科大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる 歯科医療人養成コース			
事業計画	<p>兵庫医科大学における事業計画は、<u>オーラルマネジメント(OM)の構成要素である“CREATE”を理解する研修歯科医育成</u>を目指して構成されている。プログラム履修により、歯科医師に必要とされる周術期口腔機能管理を、口腔清掃を中心とした「口腔ケア」だけではなく「オーラルマネジメント」(以下、OM)へと昇華させ、さらに近い将来に発生することが予想されている大規模災害時にOMを適応しうる歯科医師を養成する。</p> <p>OMとは、広義の口腔清掃(Cleaning)とリハビリ(Rehabilitation)の2つに加え、ブラッシング指導のような教育(Education)、的確な口腔の評価(Assessment)、抜歯や義歯の調整など歯科治療(Treatment)の5つの要素が揃うことが重要であるという概念である。これら5要素を適切に達成できれば、おいしく食べる(Eat)もしくは、楽しむ(Enjoy)ことが可能となり、これら要素の頭文字6つを順に並べるとCREATEで、「食べられる口をCREATE(つくる)」が目標である。VAP(Ventilator Associated Pneumonia:人工呼吸器関連肺炎)を予防することから始まったOMは、周術期口腔機能管理の“CREATE”を基本概念として広く普及している。「平時」すなわち非災害時は、“CREATE”を実践し、医科・歯科連携を深化できる医療人を育成する。また、このカリキュラムの最大の特徴は「平時」から、OMを「災害被災時」すなわち「有事」にも適応させることが可能なようにトレーニングすることである。兵庫医科大学は1995年の阪神・淡路大震災で病院機能を失い、医師・歯科医師が避難所を回っている間に数多くの震災関連死に遭遇し、そのうち約4割が誤嚥性肺炎によるものであった。その後、2005年のJR福知山線脱線事故(107名死亡)では都市型大災害でOMの重要性を実践し、東日本大震災では早期に被災地に入り、OMを実践した。災害急性期にはチーム医療の一員として震災関連死、特に誤嚥性肺炎を予防すべく、上記の述べたOMを患者・被災民へ応用し、使用可能な物資で大規模災害の被災地における食支援や口腔ケアを実践する知識と技術を習得した歯科医師を育成できると考える。</p> <p>兵庫医科大学は、平成28年4月の研修歯科医師の受け入れを目標としており、本年度は事業開始に伴う構成員への説明や、プログラム構築に必要な体制作り、CREATEの普及を重点的に行った。</p>			
成果	<p>本プログラムに関わる構成員らは、第26回口腔科学会・日本インプラント学会第34回近畿北陸支部学術大会・第3回日本口腔腫瘍学会・第59回日本口腔外科学会に発表・参加し、新たな知識の獲得と情報発信に努めた。</p> <p>他大学における卒後臨床教育の実態を把握ために、構成員らが他大学に出張した。また、当講座の若手医師が卒後臨床教育の一環として、他大学で行われた種々のセミナーに参加し、情報の収集を行った。平成25年9月と平成26年2月に岡山大学で行われたキックオフシンポジウムには、本プログラムに関わる研修医を含む若手歯科医師も参加したことで、この事業について多くの医</p>			

	<p>局員が理解を深めることができ、事業遂行に活かされると考える。</p> <p>兵庫医科大学としての取り組みでは、口腔リハビリについての知見を深めるため、千里リハビリテーション病院の熊倉勇美先生を招き、口腔がん術後のリハビリテーションについて学ぶ機会を設けた。本院の言語聴覚士も参加し、多職種連携における知識の共有を図る機会となった。今年には阪神・淡路大震災から20周年にあたり「有事」におけるオーラルマネジメント（OM）の重要性を講演会等で発信した。大災害を振り返ることで、各々が有事におけるOMの重要性を再認識する機会となったと考えられる。</p> <p>有事・平時のOMでは医師、看護師ら、多職種との連携によるチーム医療を的確かつ円滑に行うことが求められる。病院歯科だけではなく、地域の歯科医院でもOMが実践できるよう講演会を通してOMの周知を行った。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年11月8日 第5回愛媛県歯科医学大会（講演：岸本裕充） がん治療・災害時の口腔ケア・オーラルマネジメント ・平成27年1月24日 兵庫県病院歯科医会 阪神淡路大震災20周年記念集会 「震災20年を機に病院歯科の在り方を考える集い」（講演：岸本裕充・門井謙典） 討論会「大規模災害における病院歯科の役割と期待」 ・平成27年2月13日 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム（講演：岸本裕充） 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革 キックオフシンポジウム 「兵庫医科大学病院歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラム」 「「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人を養成する」
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品</p> <p>書籍、DVDの購入 （若手医師のための臨床の技50シリーズ、イラストでみる口腔外科手術シリーズ等書籍13冊 3D Human anatomy等、DVD2枚） 教育用の歯牙模型各種（ニッシン社製）</p> <p>旅費</p> <p>第26回口腔科学会 日本インプラント学会第34回近畿北陸支部学術大会 第3回日本口腔腫瘍学会・第59回日本口腔外科学会に発表および参加。 新潟大学へ教室見学，東海大学へ手術見学を実施。 臨床解剖セミナーへの参加。 医局員16名がキックオフシンポジウムに参加。 東京オーラルマネジメント研究会に参加。</p> <p>備品</p> <p>位相差顕微鏡(イポナコロジー社製)，インタラクティブプロジェクター(EPSON EB-1420WT) どちらも卒後臨床教育とプロジェクト教材製作のために購入</p> <p>その他</p> <p>学外より講師を招聘し，口腔がん術後のリハビリテーションについて講演会を行った</p>